

高齢社会の医療を支えるために

日本病院薬剤師会理事
社会医療法人近森会近森病院薬剤部長
筒井 由佳 Yuka TSUTSUI



平成30年6月より療養病床委員会の委員長を拝命いたしました。何卒よろしくお願い致します。療養病床委員会は療養病床および高齢者施設等における諸課題の調査および企画立案に関する事項を担当しています。これからの高齢社会の医療を支えるために慢性期での活動は大変重要な役割を担っていると考えています。

2016年より都道府県ごとに「地域医療構想」が策定され、高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4機能ごとに2025年の医療需要と病床必要量推計を基に、目指すべき医療提供体制に向けた病床機能の強化と再編が行われています。今後、増加が見込まれる医療・介護ニーズへの対応のため、2018年に介護医療院が新設され、介護療養病床や医療療養病床からの転換が進められることとなります。こうした病床の機能分化が進み、それぞれの病院機能において薬剤師に求められる役割の違いも明確になってきました。慢性期医療では特に高齢患者へのポリファーマシーに対応し、在宅や施設で適正に薬剤を管理できるよう、生活の質を考えた処方の見直しや簡素化への取り組みが大切となります。また地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携、多職種協働による地域支援の整備への貢献にも大きな期待が寄せられているところです。日本病院薬剤師会賀勢泰子副会長の「急性期は命を救う医療であり、慢性期は寄り添う医療であるが、患者一人ひとりと向き合い、病態や病期に応じた薬学的ケアを提供することは変わらない」との言葉に表されるように、どの病院機能においても薬理学や製剤学に基づく専門性をもって、医療に貢献することは薬剤師に一貫して求められる役割です。さらには、薬剤師間での相互理解を深め、薬剤師の視点を付加した情報の共有と連携により、それぞれの施設で安全で有効な薬物療法の継続を図ることが、薬剤師の評価に繋がるものと考えます。

近年では病院薬剤師の活動の場は大きく広がり、薬剤部門だけでなく経営部門や地域連携部門等においてもその力が必要とされ、存在感を増しています。一方、人口減、移民受け入れ、認知症高齢者数の増加、人工知能（artificial intelligence：AI）、情報通信技術（information and communication technology：ICT）の利用、価値観の多様化、働き方改革等、一昔前には想像もしなかった環境の変化と問題に対応していかなければなりません。また薬剤師の地域偏在や薬剤師不足による売り手市場の継続は、働き方の選択肢を増やすと同時に職場への帰属意識を希薄にしているようにも感じます。病院薬剤師の未来のためには時代に即した新しい薬剤師像を考え、柔軟に変化する力を育てるとともに、薬剤師としての使命感をもって働く人材が報われる環境でなくてはならないと思っています。

令和に元号が変わり、不思議なものでそれだけで良い時代にしたいと気持ちが前を向きました。厳しい時代だからこそ、しっかりと前を向いて、将来のために種をまく努力を忘れずにいたいと思います。